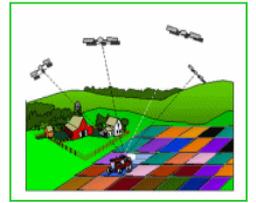


北海道情報化農業ニュース

北海道における持続的な農業の発展のための情報技術の活用促進
およびその健全な普及を図る。



● 「GIS DAY in 北海道 2014」開催案内 ● ● ●

号外 2014. 09. 25

酪農学園大学より「GIS DAY in 北海道 2014」の開催案内がありましたので、お知らせします。

「GIS DAY in 北海道 2014」の開催案内
GIS・リモートセンシング・GPSの「未来」を考えてみよう！

【講演会】

◆日時： 10月31日（金） 9:00-12:30

◆場所： 酪農学園大学 中央館 1F

◆共催： 日本写真測量学会北海道支部

◆講演会

「基盤情報の活用の今と今後（仮）」

大塚 義則 氏（国土地理院北海道地方測量部部長）

「超小型衛星にみるリモートセンシングの未来」

高橋 幸弘 氏（北海道大学大学院理学研究院教授・創生研究機構宇宙ミッションセンターセンター長）

「GIS・GPSの未来」

金子 正美 氏（酪農学園大学農食環境学群環境共生学類教授・農業環境情報サービスセンターセンター長）

「消防防災現場から見る位置情報の活用どころ」

目黒 茂樹 氏（江別市消防署消防課救助1係）

【展示会・交流会】

◆日時： 10月31日（金） 11:00-16:30

◆場所： 酪農学園大学 中央館 2F

【講習会-1】

◆日時： 11月1日（土） 9:30-16:30

◆場所： 酪農学園大学 A1号館

◆コース名： 「UAV空撮 AtoZ」

UAVを使ってデータを自分で作成する自由を手に入れましょう！AmazonやgoogleのUAV活用の発表と、安価なUAVであるphantom2の発売等、UAVに関しては非常に注目が集まっています。昨年のGISday in 北海道でもUAVを展示されているブースがありましたが、すでにGIS、リモートセンシング業界においてもその活用が進んでいます。おそらく、みなさんの間でもUAVを知っている方は多いと思いますが、実際に使ったことがある人というとまだまだ少なく、実際どんなものかを知りたい方も多いと思います。そこで今回は、そのUAVでの空中写真撮影とデータ処理を学ぶコースを開催します。このコースでは、UAVの知識（トレンドやメーカー、機体の構造等）、

運用面の実技（安全面の配慮、操作等）、そしてデータ取得と処理（写真撮影とデータ処理）の3つのポイントから講義と実習を行います。

◆講師： 小玉 哲大 氏（株式会社 フォテック）

◆内 容

（ア）UAV の知識（トレンドやメーカー、機体の構造等）

（イ）運用面の実技（安全面の配慮、操作等）

（ウ）データ取得と処理（写真撮影とデータ処理）

◆参加人数： 15 人程度（ノート PC を持参できる方を想定しています）

◆費 用： 1000 円（資料代） 当日受付にてお支払ください。

【講習会－2】

◆日 時： 11 月 1 日（土） 9：30－16：30

◆場 所： 酪農学園大学 A1 号館

◆コース名： 「初歩からの空間統計」

GIS をバリバリ使って分析して、その結果を使って自信をもってお話している人ってなんだかかっこいいですよ。しかし、そういうスキルはどうやって身につければいいのか。講習会等ではソフトの使い方はあるけれど、結果の解釈の方法まで教えてくれるものは殆どありません。そこで今回は、「まったくの初心者が、GIS の空間統計まで1日で行えるようになる」を目標に、コースを考えてみました

◆内 容（どちらか1つの受講も可能です）

第1部 ArcGIS の操作や機能を0から学ぶ。

講 師： ESRIJAPAN 株式会社

第2部 土地利用の変化分析を題材に、空間統計の最も基礎的かつ応用可能な方法を学びます。

講 師： 川村 真也 氏（北海道大学文学研究科専門研究員、酪農学園大学非常勤講師）

◆参加人数： 20 名程度

◆費 用： 無料

【講習会－3】

◆日 時： 11 月 1 日（土） 9:30-15:00

◆場 所： 酪農学園大学 A1 号館

◆コース名： 「匠から学ぶ 空中写真の『見方』」

高解像度の素晴らしい画像データを活用できていますか？どんなに良いデータも基礎となる知識や技術があつてこそ活用できます。今回は、高解像度画像である空中写真をつかって森林をメインに判読する際の「見方」を少人数でじっくり学びます。実体鏡は使いません。あくまで、写真をどう読み解いていくかにフォーカスします。実体視が必要な場面では誰でも簡単に PC 上で実体視できるステレオビューワーというソフトを使います。匠がどう写真をみて、どうデータ化していくのかを学びましょう。これからどんどん高解像度衛星等の画像が使えるようになっていきますが、他の人が 10%くらいしか活用できていないところを、100%活用していくために、今が学び時です！

◆講 師： 板垣 恒夫 氏（森林航測研究代表）

◆内 容

（ア）匠の判読哲学（植生図や土地利用図、林層区分図等の作成のご経験を通して）

（イ）写真の見方をサンプル写真を用いて解析。大縮尺から小縮尺まで判読のポイントを整理します。

（ウ）現地を確認し、写真の見え方と現地を対応させるポイントを整理します。

（エ）ステレオビューワーを用いて実体視をしながら、実際に判読しながら判読のポイントを参加者と講師で確認していきます。

◆参加人数： 5-10 名

◆費 用： 無料

※詳細につきましては、www.rakuno.ac.jp/dep25/gisday2014/ をご覧ください。

＜発行＞北海道高度情報化農業研究会
事 務 局：常田 大輔
〒060-0005 札幌市中央区北 5 西 6-1
公益財団法人北海道農業公社
TEL：011-241-7551 FAX：011-271-3776
e-mail：tsuneta@adhokkaido.or.jp

編集委員：丸山 健次（酪農学園大学）
TEL&FAX：011-388-4864